

土岐川グリーンベルト通信 第28号

平成 21 年度「三ッ池の森」多治見中学校による活動報告

今年度、多治見中学校では、自然学習の一環として、1年生 185 名を対象として、樹林の大切さ・樹林整備の意義についての学習会を3回、三ッ池の森の樹林整備活動を1回行いました。

○第1回学習会（平成 22 年 1 月 14 日）

講義「樹林の大切さ、樹林と人とのかわり」

～NPO 法人鎮守の森より長尾講師を招いて～

○第2回学習会（平成 22 年 1 月 21 日）

ビデオ学習「三ッ池の森の歴史、樹林整備の意義」

○第3回学習会（平成 22 年 1 月 28 日）

講義「樹林整備の方法（木の切り方・片付け方、切る木・残す木など）」

実習「ヘルメットのかぶり方」

○樹林整備活動（平成 22 年 2 月 4 日）

25 班にわかれて、樹林の面整備を実施



学習会の様子

第1回 学習会



第2回 学習会



H22.1.14 第1回学習会の様子は、新聞にも取りあげられました

里山の整備方法を学ぶ
NPO法人の副理事長解説 多治見中の1年生

多治見市星ヶ台の地だ。三ッ池の森は、国土元住民が管理する里山。三ッ池の森は、国道一三ッ池の森の整備、交通省多治見砂防国道事務所などの里山保全事業「土岐川流域グリーンベルト整備事業」に指定されている。

生徒たちは計三回の座学を経て、二月上旬に実際に里山に入る。

（志村彰太）

長尾副理事長の説明を熱心に聞く生徒たち＝多治見市多治見中学校で

「鎮守の森」の長尾純夫副理事長（左）が、地球温暖化問題などを挙げて里山保全の必要性を解説。「三ッ池の森の管理は環境を良くするの第一歩」と力説した。

今回は事前学習で、市内の特定非営利活動法人（NPO法人）「鎮守の森」の長尾純夫副理事長（左）が、地球温暖化問題などを挙げて里山保全の必要性を解説。「三ッ池の森の管理は環境を良くするの第一歩」と力説した。

る。PTAなどで行く「整備の会」が定期的な間伐などを行うほか、一年生が毎年冬に下草刈りを体験している。

第3回 学習会



樹林整備活動の様子

25班にわかれて、1班あたり100m²程度の範囲で、枯れ木・生長の悪い木などの伐採を行いました。

当日は、中学校PTA、三ッ池の森整備の会、NPO法人鎮守の森、砂防ボランティア、多治見市、岐阜県、多治見砂防国道事務所により、安全管理や生徒への伐採方法の指導などの活動支援を行いました。皆様のご協力ありがとうございました。参加者は、中学生・支援者をあわせて、総勢250名以上でした。

集合・事前説明



森へ出発!



残す木へのマーキング
(学習会で学んだとおり、伐採前に、残す木を決めました)」



伐採作業



整備前



整備後



生長の悪い木などが伐採され、林内がすっきりしました

「土岐川流域グリーンベルト整備事業」は、多治見市・土岐市の緑を対象とし、市街地に隣接する山麓斜面を一連の緑地帯（グリーンベルト）として、保全・創出することにより、土砂災害を防止し、自然環境・景観を保全することを目的としています。

作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

TEL : (0572) 25-8020

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/>